

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

令和3年度 第1回 松川町文化財保護審議委員

2 開催日時

令和4年 3月 28日(月) 13時30分から14時30分まで

3 開催場所

松川町資料館 視聴覚室

4 出席者氏名

文化財保護審議委員

亀山勝保 清水稔子 宮下稔 寺沢貢 長谷部正美 坂本正夫

事務局

生涯学習課長:福島俊美 文教施設係長:矢沢秀子 主事:伊坪達郎 米山梓

5 協議事項

(1)部奈ミソベタ層の天然記念物指定について ……(資料1)

6 報告事項

(1)埋蔵文化財について ……(資料2)

(2)指定文化財について ……(資料3)

(3)元気づくり支援金活用事業について ……(資料4)

(4)カヤネズミについて ……(資料5)

7 傍聴人の数

なし

8 会議資料の名称

令和3年 第1回 松川町文化財保護審議委員会 資料

(参考資料)松川町部奈のミソベタ層に発見した多数の埋もれ木跡

[坂本正夫,2022.伊那谷自然史論集 23:1-12.飯田市美術博物館]

9 審議の概要

教育長あいさつ

審議委員長あいさつ

<協議事項>

(1) 部奈のミソベタ層の天然記念物指定について

<報告事項>

令和3年度 文化財保護事業報告

(1) 埋蔵文化財について

(2) 指定文化財について

(3) 元気づくり支援金活用事業について

(4) カヤネズミについて

◎協議

(1) 部奈のミソベタ層の天然記念物指定について

事務局より、部奈ミソベタ層の天然記念物指定に向けた協議等の経緯を説明。(資料 1) あわせて令和4年3月7日に協議会役員案内のもと事務局による現地確認を実施した様子を報告した。また、令和3年12月に上記協議会より要望書が提出されたことにより、今後指定に向けた具体的な協議をすすめていきたい旨を説明した。

ミソベタ層を研究している坂本委員より、ミソベタ層および埋もれ木について概要を説明。

指定についての反対意見・質問なし。来年度以降指定に向けた協議を進めることで一致。

—その他—

委員 A : 年度末に第1回目を開催したのはなぜか。また、令和4年度の審議会の日程について知りたい。

事務局 : 今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、審議会の開催がずれ込んでしまった。令和4年度の審議会の日程については4月に入り次第調整したい。来年度はミソベタ層の指定に向けた協議を進めるため、3回ほど開催を予定している。また、ミソベタ層の現地視察が行えたらよいが、足元が悪く、危険な箇所もあるためどのように視察を行ったらよいか検討している。

◎報告

令和3年度 文化財保護事業報告（事務局より説明）

(1)埋蔵文化財について

(2)指定文化財について

(3)元気づくり支援金活用事業について

(4)カヤネズミについて（宮下委員より情報提供）

委員 B：北海道のカヤネズミについてテレビ番組で取り上げられているのを見た。貴重な生き物について住民に広く知ってもらうことはいいことだと思う。

宮下委員：館報や広報、チラシなどで全戸に資料を配布し大勢の人の目に触れる機会が欲しい。カヤネズミの生息地を守るため草刈りの仕方を考えるなどの配慮も必要になってくる。

事務局：館報などは全戸配布であるのと同時にホームページ上でも見られるようになっている。今後資料館での展示なども考え、周知していきたい。
また、同じく貴重な生き物であるアカモズについても、公民館で生息する果樹園の視察を行うなど保全に向けた取り組みを行っている。

委員 C：アカモズはもともと果樹園に巣をつくるような習性があるのか？

宮下委員：はじめは違う場所に巣を作っていたと思うが、現在は果樹園地帯を気に入っているようだ。果樹農家もアカモズの保全にとっても協力的である。

事務局：現在、信州大学や北海道大学とも連携して保全のための取り組みを行っている。今後も継続して保護措置についての検討を進めていきたい。

その他

ツツザキヤマジノギクについて

委員 D：昨年の出水でツツザキヤマジノギクが流されている。別の場所へ移すことはできないのか。

事務局：（ツツザキヤマジノギクの保全活動について説明。）

危険回避のため、一段高い場所に圃場を整備した。

また、およりの森へも圃場を整備したことにより、災害等への対策を行っている。

生田の石仏について

委員 E : 生田の石仏(秩父三十四観音など)について、以前県の文化財に指定するという話があったが、その後動きはあるか。

事務局 : 県の文化財に指定するためにはまず町の文化財として指定しておく必要がある。現段階ではそこまでの協議はされていない。

委員 E : なくなってしまう前に保存していくべきではないか。

事務局 : 町の文化財として指定していないものの保全についても検討していく必要があると考えている。ただ、文化財の保全には地元の方の協力が不可欠であるため、地元の意見も聞きながら取り組んでいきたい。

委員 D : 審議会としても一度見学する機会が必要。実際にものをみてから審議会でも協議をしていけたらと思う。

事務局 : 見学の機会を設けたい。

文化財をどのようにして次世代に引き継いでいくかも課題であり、今後検討していく必要性を感じる。

以上